

1 日時

令和2年10月12日（月）午前10時10分から午前11時35分まで

2 開催場所

柏市役所本庁舎3階 庁議室

3 出席者

(1) 選定委員会委員

鬼沢副市長（委員長）、飯田企画部長（副委員長）、高橋総務部長、高橋財政部長、市原保健福祉部理事、宮本高齢者支援課長

【専門委員】渡部昭氏（社会福祉法人千葉県厚生事業団理事長）、山本敏子氏（社会福祉法人柏北部地域包括支援センター長）

(2) 高齢者支援課（施設所管部署、事務局）

野口主幹、齋藤副主幹、見村主任

(3) 情報・業務改善課（指定管理者制度総括部署）

鈴木主事

4 配付資料

(1) 進行スケジュール

(2) 指定管理者候補者の選定審査評価表、評価における意見

(3) 候補者選定の考え方

5 議事概要

（※以下、鬼沢副市長が委員長として議事を進行）

(1) はじめに

委員長から開会の挨拶

(2) 面接審査について

【主な内容】

- ・ 書類審査において面接審査の対象とした応募団体1団体（以下、「応募団体」という。）について面接審査を実施する。
- ・ 面接時間は、各団体1時間（入退室時間を除く）とする。うち、20分をプレゼンテーション、残りを質疑応答の時間とする。

【応募団体に対する主な質疑応答】

渡部委員 男性の利用者が多いとのことだが、囲碁や将棋があるからか。他に理由があったら教えて欲しい。

応募団体 男性は、お風呂、カラオケ、囲碁、将棋の利用が多く、これらが魅力となっているようだ。

宮本委員 男性の講座への参加状況はどうか。参加が少ないのならば、今後どのような工夫を考えているのか。

応募団体 男性は、個人利用が主であるが、仲間を誘い合うケースもある。講座は

古典や手芸等の手作り講座が人気で、女性の参加が多い。陶芸サークルは、男性が中心となり活動している。講座に楽しさを感じられれば、男性の参加率も増えるため、男性に魅力的な講座を取り入れたい。

市原委員 施設管理に特化した専門職はいないようだが、施設の老朽化対応として、これまでどのような対応を行ってきたのか。

応募団体 施設管理は、専門業者と契約している。専門業者には、日常点検等で早めの報告をしてもらい、迅速な対応に努めている。実際に修繕が必要な場合は、高齢者支援課に報告し、調整している。

山本委員 コロナの影響があるとはいえ、ここ数年、利用者が減少しているようであるが、新たな対応策はあるのか。

応募団体 まずは、コロナの影響による利用者減少対策を行うとしている。手洗い、消毒等の徹底を利用者へ声掛けし、利用制限の緩和を進めていきたい。

新たな企画としては、動画を使ったものや地域散歩等、老人福祉センターの外で楽しめるような方法も模索していく。

高橋(財)委員 利用者が友人等を誘い合うケースが多いようであるが、口コミや誘い合いを増やすための方策と、それ以外の媒体はどのような取り組みをお考えか。

応募団体 HPよりも、館内ポスターや地区社協等の案内から情報を得る方が多い印象である。介護予防センターのイベントで告知したり、団体の業務である相談事業や地域活動でお知らせをして情報を広める様にしている。

高橋(財)委員 口コミを増やすには、利用者のニーズが高い事業を展開することで、参加動機につながるのではないかと。ニーズの高い事業を取り入れているのか。

応募団体 利用者のニーズ調査については、定期的にアンケートを取り、その中で希望に沿うような講座を展開している。

渡部委員 多くの常連が長期利用してしまい、新規の利用者が利用しにくい状況があるのではないかと。

応募団体 実際にそのような苦情をいただくことがあるが、各館では新規利用者が優先的に使用できるような配慮を行っている。

高橋(総)委員 職員の人員体制は、各センターに所長1名、チーフ2名とスタッフ4～6名となっているが、常駐職員であるか。清掃業務等は、この人数で対応しているのか、再委託しているのか。

応募団体 職員は常駐している。清掃業務については、再委託をしているが、できる範囲で職員も対応している。

高橋(総)委員 各センターの企画等は常駐スタッフが独自に企画し、共通認識を図ることで、各センターの事業がバランスを取っているという認識でよいか。

応募団体 そのとおりである。

飯田委員 これまでは「新たな価値を創造」する場として取り組みを行ってきたが、これからは「多世代交流の推進拠点」を打ち出し、具体的な提案もあるが、一時的にやっても効果は低い。通年を通して実行するには、何が必要だとお考えか。また具体策は。

応募団体 おまつり等の一過性の企画もある。看護学校の福祉実習の場や、夏休み

を活用して子ども向けのボランティア企画といった体験学習を考えており、若い方と接する目新しさを取り入れたい。現利用者は、自分が楽しむために来ているが、多世代交流の場に接することで地域共生社会実現に向けた役割を担って欲しいと考えている。ファミリーサポートの講習会等で高齢者が地域でいきがいを持って活動できる企画を進めていきたい。

飯田委員 これまでの機能を維持するよりも、新たな機能を付加しながら運営を進めたいということか。

応募団体 老人福祉センターで多世代交流を取り入れることは、法令や条例等に照らし合わせると難しい側面もあるが、高齢者を中心に、子育てや地域交流等を少しずつ融合させる取り組みをしていきたいと考えている。

渡部委員 指定管理者がおこなう修繕は30万円未満とある。老朽化も進んでいるとは思いますが、頻度は関係ないのか。

所管課 30万円以上の修繕は市で行う。指定管理者でおこなう修繕は30万円未満のものになるが、頻度は関係ない。同じ修繕を繰り返すようならば、指定管理者から相談があると思われる。その場合、市で大規模修繕を行う可能性もある。

市原委員 事業計画書で、災害時の支援態勢の強化と新たなネットワークの構築と、行政と相互協力や関係機関とのパートナーシップ協定の締結に向けて調整を行うとあるが、どこまで進んでいるのか。また、老人福祉センター3館の内2館が柏市の避難所として指定されているが、どのような対応を検討しているか。

応募団体 市の避難所になる可能性があるとして、普段から各センターの所長等と連携しながら情報収集に努めている。また、団体として災害時の移動サービス事業をおこなっており、対応ができるよう資格の取得等の準備や発電機等の災害備蓄の支援も検討しながら進めている。

市原委員 災害パートナーシップとは、協定という形ではないのか。

応募団体 協定は、社会福祉協議会本体と柏市で結んでいる。団体として連携できる機関も含め、協定を検討する。

市原委員 例えば突然、市民が避難所として来られた時に受入れはできるのか。

応募団体 避難所として開設する場合は、市から指示が来て準備するものだと思う。今まで避難所になったことはないが、人的な配置等の協議をしながら進めていく。団体としても、災害ボランティアの立ち上げ等もあるため、人手は課題になってくる。

鬼沢委員 施設の特性や利用者の傾向の話があったが、各施設で異なってくるのか。

応募団体 施設規模によって利用者数に違いがある。南部が利用者が一番多く、その分トラブルも多い。いこい荘は穏やかに過ごされている方が多く、柏寿荘は送迎バスを利用して来館する方が多い印象である。柏寿荘の利用者は、他館を回られる方も多く、他館を回る利用者の情報は、3館で共有している。

鬼沢委員 高齢者施設は、リピーターが固定されて、新規利用者が入りにくいところがあるが、新規利用者の割合はどのくらいか。

応募団体 昨年度の新規利用者は、柏寿荘で20人、南部で131人、いこい荘で59人。3館利用される方もいるので、実人数は年間で200人程度で、率としては多

くない。

鬼沢委員 傾向としてはリピーターが大半ということだが、利用者に魅力ある企画と新規利用者が入りやすい雰囲気を作っていないと難しい。

応募団体 確かに活動グループができあがっているので、新規利用者が仲間に入れるようにスタッフが巡回して間に入っている。

鬼沢委員 これまで長きにわたり指定管理者として経験を積んでいるので、老人福祉センターの安定的な管理や運営については、心配していない。健康寿命や男性の社会参加を増加させるために更なる具体的な仕掛けを工夫し、資料にある重点目標を進めて欲しい。

応募団体 男性の利用が多いのは、公共的な施設で使いやすいという要因があると思う。現代の高齢者は、70歳～75歳ぐらいから利用している。今までの老人福祉センターは、レクリエーションといった娯楽要素が主であったが、楽しみの場やこれまでの栄養相談や健康相談だけでなく、社会的な役割の意義を示した新たな活動の場として提供できればと思う。スタッフだけでなく、利用者とも相談しながら具体的に展開していきたい。

渡部委員 これからは利用者も、施設のサービスの恩恵にあずかるだけでなく、地域を支えるために、寄与する活動を進めてもらえればと思う。

(3) 候補者の選定

【決定事項】

- ・ 社会福祉法人柏市社会福祉協議会を、柏市老人福祉センターの指定管理者候補者とする。